

BUSINESS REVIEW 2009

第2四半期累計ビジネスレビュー
2008年9月1日～2009年2月28日



GROUP HIGHLIGHTS 2009

- ▶ 2009年8月期第2四半期累計、連結売上高3,574億円（前年同期比+13.0%）、経常利益631億円（同+18.2%） ▶ **国内ユニクロ：** ヒートテック、昨年に引き続き大ブレイク。グローバルで2,800万枚を販売し話題沸騰に
- ▶ **国内ユニクロ：** 売上好調、2008年11月の既存店売上高伸び率+32.2%を記録、6ヶ月累計でも+12.9%増を達成 ▶ **国内ユニクロ：** ウィメンズ商品強化へ、世界的デザイナーのジル・サンダー氏とのデザインコンサルタント契約を締結 ▶ **海外ユニクロ：** 4月9日、シンガポール第1号店をオープン ▶ **国内関連：** ジュー「990円ジーンズ」発売。大きな話題に ▶ **グローバルブランド：** リンク・セオリー・ホールディングスのTOB（公開買付け）を実施、下期より連結子会社化
- ▶ **中間配当金：** 1株につき75円を実施



LTH

TOB（公開買付け）の結果、第3四半期より連結子会社といたしました（株）リンク・セオリー・ホールディングスは、Theory（セオリー）や Helmut Lang（ヘルムート・ラング）などをグローバル展開しているファッションアパレルです。同社の主力ブランドであるTheoryは、抜群の着心地のよさと、洗練されたルックス、さりげないトレンド性を取り入れたニューベーシックをコンセプトにスタイルを提案する、NY生まれのブランドです。

グローバルワン・全員経営

社員全員が経営者マインドをもち、成長の原動力となる。世界中で最良の方法で成長していくグローバルワンをめざします。

ユニクロはグローバルブランドに

国内ユニクロの業績拡大により、当第2四半期累計も大幅な増収増益を達成しました。売上が好調な背景としては、ユニクロがグローバルブランドとして認められはじめたからではないかと思っています。品質にこだわり続けた結果、ヒートテック、ダウンジャケット、サラファインインナーなどの高品質素材の商品を生み出すことができ、あらゆるお客さまにご好評をいただいています。また、NY、ロンドンのグローバル旗艦店、アジア市場におけるユニクロの成功が海外市場での評価につながっています。

世界中のハイストリートに旗艦店・大型店を出店

「世界中の大都市にユニクロのグローバル旗艦店・大型店を出店する」という、出店戦略は変わりません。4月には東京・新宿駅西口に大型店をオープンし、大反響を得ました。また、ヨーロッパ市場にユニクロ旋風を巻き起こしたいと考えているパリ旗艦店のオープンを筆頭に、東京・銀座店の増床をはじめ、続々と国内の大都市へ大型店の出店が今秋は続きます。

世界中でひとつの企業グループ

2009年3月にセオリーブランドを展開するリンク・セオリー・ホールディングスをTOBし、子会社化しました。今後はコントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業との相乗効果で、世界中に出店できる体制づくりをします。グループのポートフォリオの加速は、グローバルワンへの道筋に重要なものであると確信しています。

今後も世界で一番良い方法でグループ全事業を全員で経営していくグローバルワンをめざします。ユニクロの成長が証明したように、社員全員が経営者マインドを持つことこそが企業の成長の原動力だからです。



代表取締役会長兼社長

柳井 正



ソーホーニューヨーク店

ユニ
クロ

品質で選ぶブランド＝ユニクロとして認知を確立。
グローバル旗艦店第1号のソーホーニューヨーク店は、
今日も活気にあふれています。

UNIQLO USA

ソーホー地区で一番の売上高を誇ります

米国のソーホーニューヨーク店は、グローバル旗艦店の第1号として2006年11月にオープンしました。売場面積は、ユニクロ史上最大級の1,000坪。店内は、豊富なカラーと服の圧倒的なボリューム感、日本のポップアートのプリントTシャツなどの品揃えでお客さまを迎えています。NYは不景気といわれていますが、常に店内は活気にあふれ、若者のファッションの中心地ソーホーで最も売上の高いショップとして注目されています。

品質で選ぶブランド＝ユニクロとして支持されています

景気が低迷している中でお客さまの目はよりシビアなものになっています。例えば、ワンシーズンしか着られない服ではなく、ユニクロのように長く着られる品質の良い商品はとても人気があります。低価格で高品質というユニクロのブランドイメージは定着してきたのではないのでしょうか。メンズはコーディネートで複数の商品を買われることが多く、ウィメンズでは商品の種類を増やして欲しいというご要望が寄せられています。

すぐれた企業理念のもとで働けることが誇りです

ニューヨーカーの文化は日本とは異なりますが、ユニクロという企業があつ、「本当に良い服を創造し、あらゆる人々に良い服を着る喜び、幸せ、満足を提供する」という価値観のもとで働くことができるのは、私たちにとって誇りです。ソーホーニューヨーク店は、ふらりと立ち寄るだけでもわくわくするショップです。美術館のように美しくもあり、遊園地のような楽しさもあります。そんな雰囲気をあらゆる方に感じていただけるような店にし続けたいと思っています。



女性向け人気商品の開発で、シェア拡大

2008年に300万枚のヒットを記録したブラトップの企画・開発を手がけました。ブラトップは、ブラジャーを着けている安心感を得ながら、そのまま外に着ていくことのできるトップスです。原型は2004年から発売していましたが、改良に改良を重ね、他社の追随を許さないような商品まで完成度を高めることができました。今シーズンは、カラーバリエーションや柄を豊富に取り揃えることで、昨年以上の販売数量を計画しています。

マーチャンダイジングは、商品企画の仕事ですが、私は経営そのものであり、ユニクロの商売の核であると考えています。もともとユニクロはメンズカジュアルウェアが中心で、メンズ商品をユニセックスと名づけて男女兼用で売っていました。

でも、ファッションはウィメンズ市場の方が大きいのです。そこを獲得していくためには、女性向けの人気商品の開発が必要でした。そういった意味で、カシミヤのセーター、ヒートテックインナー、ブラトップは生まれるべくして生まれたヒット商品といえるでしょう。

(株)ユニクロ 執行役員
商品本部 ウィメンズMD部

白井 恵美



BRA TOP 2009

ブラをつけずに、ブラをつけてる安心感
ユニクロの新しいトップス



カシミヤ～ヒートテック～ブラトップと続くヒットは、女性の期待に応えることから生まれました。

売りたいものではなく、女性が望むものをつくり出す

商品販売や在庫状況などのデータを詳しく分析していくと、売れる商品の芽といえるものを見つけることができます。流行や女性としての実感も大切ですが、どういう価値をもち、どういう価格であれば購入していただけるかをきつめる社会学の視点が重要です。定期的に海外の主要都市でリサーチを行うことや、街の方たちの本音を知るために、ワイドショーを録画してチェックし、自分の好みに偏ったり、価値観がずれた商品構成にならないように気をつけています。ブラトップのような新商品は、女性にとって新しいライフスタイルの提案につながる商品です。今後も企業が売りたいものではなく、女性が望むもの、期待以上のものをつくり出す仕事をしていきたいと思っています。

3社の経営統合後、勝ち進める体制づくりを構築中

2008年9月に、カジュアルウェア事業のジーユー、靴事業のワンゾーンとビューカンパニーを経営統合して誕生したのが、GOVリテイリングです。3社の機能の一体化とファーストリテイリンググループの人材やノウハウの活用により、効率的な経営体制の実現をめざします。また、ユニクロの製造から販売までの一貫した仕組みの活用で、商品的にも体力的にも強い企業になりたいと思います。私たちがめざすのは、新しい価値観を持つ低価格衣料事業と靴事業です。挑戦は、始まったばかりです。➤

「990円ジーンズ」でお客さまを魅了するジーユー

大反響をいただいたジーユーの「990円ジーンズ」は、予想の倍以上の売上を記録し、年間100万本を超える売上の予定です。お客さまは20～30代のファミリー層を中心に、下は10代、上は60代までと幅広く、ジーユーの認知度が上がっているのを実感しています。これから毎シーズン「490円Tシャツ」「990円ポロシャツ」「990円スカート」など、これまでの価値観を変える新商品を次々と投入していきます。靴事業でも画期的な新商品を開発中ですので、ご期待ください。

990円ジーンズで、今までにない新しい価値感を創出。

靴事業への挑戦も始まったばかりです。



ケタ違いを、はく
¥990 g.u. のジーンズ

g.u.

安心品質で、お客さまにお届けします

お客さまに、安心できる品質を継続的に提供できることは大変に重要です。「990円ジーンズ」は、安心かつ安定した品質の素材を世界中から厳選し、ユニクロのパートナー企業である海外工場で縫製するなど、他社には真似のできないユニクログループならではのメリットを活用しています。だからこそ、低価格でありながらも、安心できる品質を実現することができました。

今後は、まずジーンズを徹底的に売りこんでいきたいと考えています。→

「990円のジーンズといえば、ジーユー」というように、日本中の誰もがバツと頭に浮かぶくらいに知名度を高めていきたいと思っています。

(株)GOVリテイリング
代表取締役社長
中嶋 修一

障がい者雇用

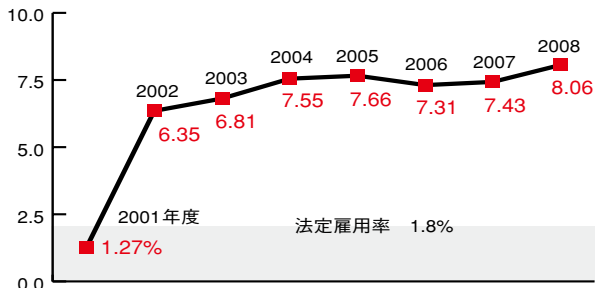
ユニクロの目標は、「1店舗1名以上」の採用です。これまでも、これからも、障がい者雇用に積極的に取り組んでいきます。

障がい者雇用で、さらなるお客さまサービス向上へ

障がい者と健常者がともに働くユニクロの店舗では、障がいのあるなしに関わらず、ともに助け合おうという意識の広がりが見られます。障がい者雇をきっかけに、店舗スタッフのチームワークがより強まり、きめ細かい配慮が生まれるなど、働く姿勢に良い影響がプラスされました。こうした自然な思いやりの精神は、お客さまへのサービス向上にもつながっていくものであると、私たちは考えています。

現在、ユニクロの8割の店舗で障がい者の雇用が進み、700名(2008年6月)のスタッフを採用しています。全社の障がい者雇用率は、法定の1.8%を上回る8.06%となっています。

障がい者雇用率の推移



2006年度までは3月末、2007年度以降は6月1日の数値です。

ひとりのやさしさが、チームワークを強くする

「職業能力開発学校で、ミシンの技術を学びました。ミシンにふれたのは小学校の家庭科以来ですが、自分に合っていると思いました。ユニクロでは、ミシンでパンツの裾上げをしたり、商品を袋から出してハンガーに通したり、サイズチップをつけてサイズ順に並べる仕事をしています。仕事をしているうちに、Tシャツのデザインをしたい、ずっとミシンの仕事をしたい、と思うようになりました」と語る



ユニクロ ヨドバシ吉祥寺店 福田 洋詩

福田さんは、大切な戦力です。

松田茂彦店長は、「みんなの体調を気にかけてくれる福田くんのやさしさに、スタッフ全員がチームで協力し合う大切さを感じさせてもらった。自分が納得できるレベルまで仕事をする彼の頑張りも、みんなの力になっています」と語ります。ひとりのやさしさが大きなパワーとなり、店舗全体のチームワークを強くしています。

当第2四半期累計の連結業績は、売上高3,574億円(前年同期比13.0%増)、経常利益631億円(同18.2%増)、純利益は355億円(同24.1%増)と、大幅な増収増益を達成いたしました。

連結売上高の約8割を占める国内ユニクロ事業は大幅な増収増益を達成いたしました。既存店ベースでの売上高を前年同期比で12.9%と大きく伸ばすことができました。損益面では、値引販売のコントロールを強化し、秋物・冬物・春物と各シーズンの早めの立ち上げに成功したことで粗利益率が改善したことに加え、売上高販管費比率も改善したことで大幅増益となりました。なお、国内

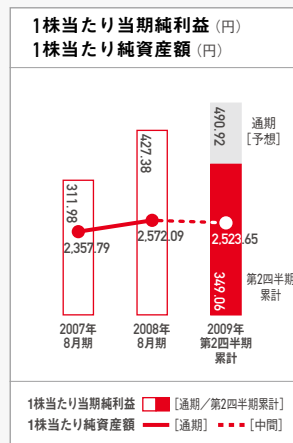
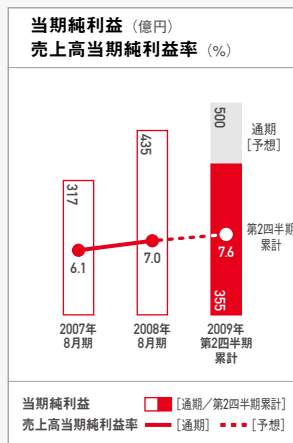
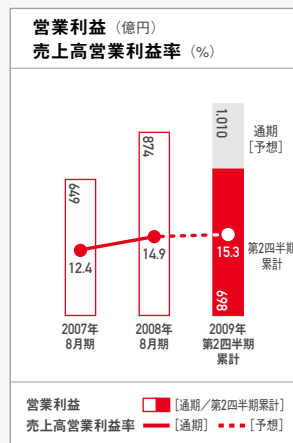
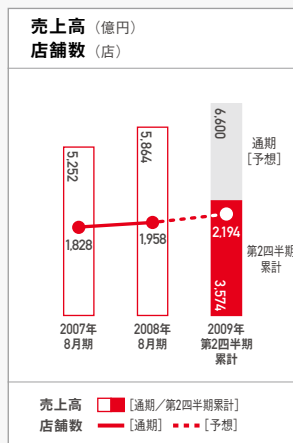
ユニクロ事業の直営店舗数は746店舗と前年同期比で8店舗増えしております。

海外ユニクロ事業は、アジア地区の業績が順調に拡大し、英国ユニクロの赤字幅が縮小したことから増益となっております。国内関連事業ではキャビンが売上未達で赤字となったことから、ほぼ前年並みの営業赤字となりました。グローバルブランド事業は減収減益とはなっておりますが、ほぼ計画通りの業績となっております。

なお、当期の1株あたり中間配当金は75円とし、年間配当金は150円を予定しています。

3年間の連結業績推移			
	2007年 連結会計年度末	2008年 連結会計年度末	2009年 第2四半期累計期間
売上高(百万円)	525,203	586,451	357,424
営業利益(百万円)	64,963	87,493	69,856
売上高営業利益率(%)	12.4	14.9	19.5
当期純利益(百万円)	31,775	43,529	35,552
総資産(百万円)	359,770	404,720	462,936
純資産(百万円)	243,283	264,014	258,533
自己資本比率(%)	66.7	64.7	55.5
自己資本当期純利益率(ROE、%)	13.6	17.3	14.5
フリーキャッシュ・フロー(百万円) ※1	△9,936	71,915	71,728
現金及び現金同等物期末残高(百万円)	119,216	169,888	226,907
1株当たり当期純利益(円)	311.98	427.38	349.06
1株当たり期末純資産(円)	2,357.79	2,572.09	2,523.65
1株当たり年間配当金(円) (1株当たり中間配当金)	130.00 (70.00)	130.00 (65.00)	※2 (75.00)
連結配当性向(%)	41.7	30.4	※3 30.5
発行済株式数(株)	101,851,096	101,850,074	101,849,247
時価総額(億円、期末日終値ベース)	6,915	11,335	10,134
期末総店舗数(店)	1,828	1,958	1,974

※1 営業活動によるキャッシュ・フロー+投資活動によるキャッシュ・フロー
 ※2 期末配当金は75円を予定しておりますので、通期では150円となる予定です。
 ※3 期末連結配当性向の予想を記載しております。



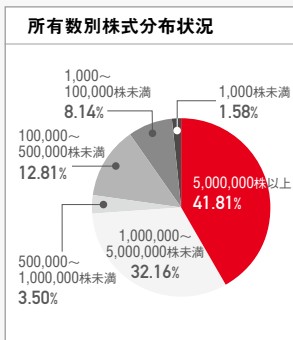
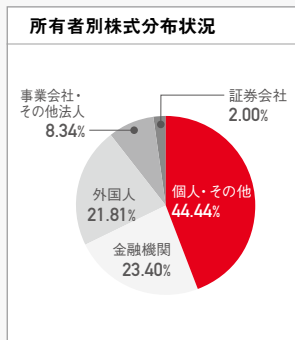
四半期連結貸借対照表			
	単位:百万円		
	前第2四半期 累計期間末 2008年2月29日現在	当第2四半期 累計期間末 2009年2月28日現在	前連結会計 年度末 2008年8月31日現在
資産の部			
流動資産:			
現金及び預金	63,977	52,670	67,248
受取手形及び売掛金	10,920	12,919	13,411
有価証券	96,657	174,427	102,912
たな卸資産	54,613	56,504	53,778
その他	24,847	28,436	26,342
流動資産合計	251,016	324,959	263,696
固定資産:			
有形固定資産	39,319	38,937	40,317
無形固定資産	42,760	37,364	40,837
投資その他の資産	60,860	61,675	59,868
固定資産合計	142,940	137,976	141,024
資産合計	393,956	462,936	404,720
負債の部			
流動負債:			
支払手形及び買掛金	53,976	92,582	57,035
未払法人税等	22,912	27,679	24,570
その他	57,084	66,454	36,984
流動負債合計	133,972	186,718	118,591
固定負債:			
長期借入金	18,520	11,819	16,288
その他	5,996	5,865	5,825
固定負債合計	24,516	17,685	22,114
負債合計	158,489	204,403	140,706
純資産の部			
資本金	10,273	10,273	10,273
資本剰余金	4,999	5,000	4,999
利益剰余金	251,488	288,838	259,756
自己株式	△ 15,548	△ 15,568	△ 15,556
評価・換算差額等	△ 17,847	△ 31,513	2,494
少数株主持分	2,101	1,501	2,046
純資産合計	235,467	258,533	264,014
負債純資産合計	393,956	462,936	404,720
【連結財務諸表のポイント】			
① 現金・預金及び有価証券の合計額は、前期末比で569億円増加 国内ユニクロ事業の営業キャッシュフローが増加したことによるものです。			
② たな卸資産は、前期末比で27億円増加 主に、国内ユニクロ事業で52億円増加したことによるものです。			
③ 為替予約勘定が、前期末比で444億円の減少 円高の進行に伴い、国内ユニクロ事業の保有する為替予約の時価が変動した ものです。ヘッジ会計を適用しているため、損益への影響はありません。			

四半期連結損益計算書			
	単位:百万円		
	前第2四半期 累計期間 自 2007年9月01日 至 2008年2月29日	当第2四半期 累計期間 自 2008年9月 1日 至 2009年2月28日	前連結会計 年度末 自 2007年9月01日 至 2008年8月31日
売上高	316,401	357,424	586,451
売上原価	159,472	179,369	292,769
売上総利益	156,928	178,054	293,682
販売費及び一般管理費	102,654	108,197	206,189
営業利益	54,274	69,856	87,493
営業外収益	1,604	1,100	2,753
営業外費用	2,441	7,796	4,547
経常利益	53,436	63,160	85,698
特別利益	334	19	1,027
特別損失	1,724	945	4,731
税金等調整前四半期(当期)純利益	52,046	62,235	81,994
法人税・住民税及び事業税	23,115	27,323	38,890
法人税等調整額	74	△ 757	△ 762
少数株主利益	215	117	336
中間(当期)純利益	28,640	35,552	43,529
④ 売上高は3,574億円、前年同期比13.0%の増収 国内ユニクロ事業で429億円、海外ユニクロ事業で28億円、ビュー事業を今期 から連結した国内関連事業で16億円それぞれ増収になり、その一方でグローバ ルブランド事業が71億円の減収となったことが主な要因です。			
⑤ 販売費及び一般管理費は、前年同期比で55億円の増加 売上が好調だった国内ユニクロ事業での増加分48億円が主な要因です。			
⑥ 営業外費用が53億円増加 円高の進行により海外子会社向け貸付金に係る評価差損などが為替差損が 前年同期比で42億円増加したこと、持分法投資損失が11億円増加したことが 主な要因です。			
四半期連結キャッシュ・フロー計算書	単位:百万円		
	前第2四半期 累計期間 自 2007年9月01日 至 2008年2月29日	当第2四半期 累計期間 自 2008年9月 1日 至 2009年2月28日	前連結会計 年度末 自 2007年9月01日 至 2008年8月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	60,206	81,397	87,336
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,426	△ 9,669	△ 15,421
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 9,289	△ 7,739	△ 19,054
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 4,243	△ 7,051	△ 2,188
現金及び現金同等物の増減額	41,247	56,936	50,671
現金及び現金同等物の期首残高	119,216	169,888	119,216
子会社の新規連結による現金 及び現金同等物増加額	—	82	—
現金及び現金同等物の期末残高	160,463	226,907	169,888
⑦ 当第2四半期末の現金及び現金同等物の残高は、前年同期末比で664億円 増加し、2,269億円となりました。各活動別では、営業活動による収入は同211 億円増加し813億円となり、投資活動により支出した資金は同42億円増加し 96億円となりました。また、財務活動による資金の支出は同15億円減少し77 億円となりました。			

会社概要		取締役・監査役 (2009年4月1日現在)	
商号	株式会社ファーストリテイリング FAST RETAILING CO., LTD.	代表取締役会長 兼社長	柳井 正
本社事務所	山口県山口市佐山717番地1	取締役(社外)	半林 亨
東京本部	東京都千代田区九段北 1丁目13番12号 北の丸スクエア	取締役(社外)	服部 暢達
設立	1963年5月1日	取締役(社外)	村山 徹
資本金	102億7,395万円	常勤監査役	田中 明
事業の内容	株式又は持分の所有による グループ全体の事業活動の 支配・管理等	監査役(社外)	安本 隆晴
連結従業員数	8,718名	監査役(社外)	清水 紀彦
		監査役(社外)	渡邊 顯
		監査役(社外)	太田 穰

株式の状況	
会社が発行する株式の総数	300,000,000株
発行済株式の総数(自己名義株式を含む)	106,073,656株
株主数(自己名義株式を含む)	10,266名

大株主	持株数(株)	持株比率(%)
柳井 正	28,297,284	26.68
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,025,600	8.51
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	7,031,500	6.63
柳井 一海	4,781,800	4.51
柳井 康治	4,780,600	4.51
有限会社Fight&Step	4,750,000	4.48
株式会社ファーストリテイリング	4,224,409	3.98
有限会社MASTERMIND	3,610,000	3.40
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	2,703,700	2.55
モルガン ホワイトライヤーズ エキ्यूティ ディリヴェイティヴ	2,426,350	2.29



株主メモ	
事業年度	9月1日~翌年8月31日
定時株主総会	毎年11月下旬
同総会議決権行使株主確定日	毎年8月末日
期末配当金受領株主確定日	毎年8月末日
中間配当金受領株主確定日	毎年2月末日
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部(証券コード 9983)
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
電話お問い合わせ 郵便物送付先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL:0120-232-711(通話料無料)
公告方法	電子公告により、当社ホームページ(http://www.fastretailing.com/jp/ir/)に掲載いたします。なお、事故その他のやむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。また、当社の貸借対照表及び損益計算書は当社ホームページの上記アドレスに掲載しております。
単元株式数	100株
ご注意	<ol style="list-style-type: none"> 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店にお問い合わせください。

IRホームページ紹介 最新のIRニュースなどご覧いただけます。

<http://www.fastretailing.com/jp/ir/>



FAST RETAILING

www.fastretailing.com

「服を変え、常識を変え、世界を変えていく」